

法華コモンズ通信

法華コモンズ仏教学林事務局

192-0051 東京都八王子市元本郷町 1-1-9 善龍寺内 FAX 番号 ⇒ 042-627-7227
ブログ <https://hokke-commons.jp> / メールアドレス hokkecommons@gmail.com

巻頭言

虚実皮膜の間

福神研究所所長・当学林教学委員・富士本國寺住職

上杉 清文

まずは、福神研究所の現況報告。

所員は、中野日演、澁澤光紀、三輪是法、作田光照、佐野湛要、上杉の六名。『福神』は、二〇一八年の十九号(特集 天皇制・JKS47)刊行後、休刊中。講座は、菅孝行先生による「天皇制」と「二〇世紀演劇の精神史」を連続六年間開講。本年秋より菅野博史先生による『摩訶止観』講義を再開。以上。

さて、法華コモンズが本年十一月の講義で「偽書」の問題をとりあげるといふことで、わたしも以前の一回限りの講義(のようなもの)でふれたことのある話を、ここで、カンタンに、むしかえしておく。これはべつに、再構築とか再歴史化といった話ではなく、まあ、いつてみれば、自説の再利用である。詳細については、『福神』四号所収の拙文「実と虚との皮膜の間にあるもの也」を、御笑覧下さい。

出

元文三年(一七三八)一月刊行の浄瑠璃評釈書『難波土産』の発端には、近松門左衛門が晩年に書いたとされる浄瑠璃作文に際しての心構えといったものが、穂積以貫によって書き留められている。なかでも、虚実皮膜論と呼ばれる、人口に膾炙した一節を引いておく。

芸といふものは実と虚との皮膜の間にあるもの也。

《嘘》が、いかにして《実》を超えた迫真性を獲得できるか、といった《芸》創造の問題を、《皮膜の間》という言い回しによって、近松は語ったとされる。

先を急ごう。近松が問題なのではない。

虚実の問題は、普遍的であり、《学問》もまた例外ではない、と考えているのである。

《学問》のめざすものが、《詩と真実》であるとしたなら、その《詩と真実》は、《実》と《虚》との《皮膜の間》にある、といえるのではないか。

出



わたしは、福神研究所の活動を通じて、高木豊先生の實証主義的な文献考証や複眼的思考法といったものの一端にふれることができたが、やはり〈学問〉に関しては門外漢の外の人間であるわたしの拠るべきは、十代の頃から親しんできた花田清輝の思考法なのである。代表作とされる『復興期の精神』の中の「鏡のなかの言葉——レオナルド」で、花田は、ヴァレリーは「生のままの真実は虚偽以上の虚偽である」と主張したが、自分は「虚偽以上の虚偽から出発し、生のままの真実に達したい」と表明する。しかし、すぐに前言を翻し、「唯、虚偽以上の虚偽だけ」でいい、といいだすのである。こうした思考の帰結として編み出されたのが「偽書」だったのである。そして、あるうことか、「偽書」に立って〈美〉も〈虚〉も批評するという離れ技を展開したのであった。つまり、これが花田清輝の虚実皮膜論なのである。まったく困ったものだし、いいようがないが、それが面白いのだから仕方がないのである。

合掌



上杉 清文 先生

講義報告

末本文美士先生

仏教哲学再考

「『八宗綱要』を手掛かりに」

報告 佐古 弘純

末本文美士先生による連続講座「仏教哲学再考——『八宗綱要』を手掛かりに」④前期講座が開催されました。先生は、日本仏教思想の第一人者であり、仏教学者の最前線で活躍され、数多くの功績をのこされておられます。本講座は、最先端の研究成果、哲学的な見解をふまえながら日本仏教を再認識していくことを目的とし、現代に生きる私たちが、諸宗それぞれの教えをどのように理解すべきなのか、学問的に検討していく大変重要な講義となっております。以下、ご報告いたします。

前回、第七章「華嚴宗」のテキストを読了したため、第一回目の講義では、応用的にひろげた講義となりました。『岩波仏教辞典』を参考に、華嚴宗の五祖（杜順・智儼・法藏・澄観・宗密）それぞれの歴史に加え、中国（唐）の高宗の皇后である則天武后、法藏が則天武后のために金獅子を喩えとして説いた『華嚴金獅子章』、漢民族と異民族の関係、荷沢神会を祖とする中国禪宗の一派である「荷沢宗」との関係など、広範囲に及ぶ内容となりました。重要なポイントとして、先生は法藏と澄観には約百年の開きがあることに着目し、澄観・宗密が禪を取り入れ、教禪一致の思想を掲げたことについて具体的に説示されました。智儼・法藏の教学から大きな変革があったことは明らかであり、特に宗密は禪を取り入れるだけではなく、仏教と中国思想（儒教）を協調することにも重点を置いていた、と聴講者に分かりやすく解説して下さいました。

第二回目の講義では、引き続き「華嚴宗」を応用的にひろげ、「十玄門」と「心の理論の展開」をテーマに講義されました。鎌田茂雄『華嚴五教章』（仏典講座28）を参考に講義が進み、「十玄門」における「全体と個」の関係は、ファシズムに通じるような単純な全体主義（ホーリズム）的なものではなく、多角的観点から捉えられている。それぞれが固定的なものではなく双方向で相互に関連しており、「全体」という抽象的なものではなく、華嚴の教えは具体的に対応できる多様性を秘めている、と丁寧な解説されました。「心の理論の展開」では、仏教における「心のありかた」の源泉は『華嚴經』にあることを指摘し、さらに玉城康四郎『心把握の展開』（1961）の心の解釈・観心と念仏・禅観と三昧など、詳細に説明され、人間の「心の問題」を考えさせられる講義となりました。

第三回目の講義では、第八章「真言宗」に入り、テキスト『八宗綱要』を中心に講義が進行されました。「真言宗の宗名」「真言宗の歴史」を読み進め、「真言宗の教判」では、十住心について具体的に説明されました。さらに、金剛界（智）と胎藏界（理・慈悲）、五大（六大）、五智、五仏の関係について解説されました。最後に、空海の即身成仏思想は六大無礙（六大・四種曼荼羅・三密）をベースとしていることにふれ、テキスト読了となりました。第四回目は「真言宗」を深く掘り下げるその



末本文美士 先生

うなので、先生の見解を伺える貴重な講義なることは確実です。本講座は、テキスト終盤（大乘仏教の根本）に差し掛かかり、聴講者の感情も最高潮に達しつつあ

ることから、レヴェルの高い質疑が飛び交い、日本仏教の様々な問題点が浮き彫りになってきました。その質疑に応答されている末木先生の豊富な知識に驚きを隠せません。大変参考になる講義だと改めて感じました。なお、本講座はオンライン開催となっており、講義動画も受講者に配信し、期間内であれば何度でもみることが可能です。皆様の聴講の申し込みをお待ちしております。

講義報告 法華仏教講座

【令和三年度後期】

第四回 西山茂先生

第五回 大竹晋先生

第六回 花野充道先生

【令和四年度前期】

第一回 村上明也先生

第二回 師茂樹先生

第三回 芹澤寛隆先生

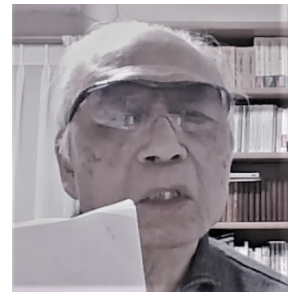
報告 担当スタッフ

毎回交代制で講師をお迎えするシリーズ講座「法華仏教講座」は現在、令和三年度後期に引き続き令和四年度前期講座として執り行われている。ここでは、本通信第八号での報告に続ける形で、本年度前期第三回までの講義報告を行いたい。(※ なお、各回共に各月の土曜日より開催日を選定。午後四時半より約二時間の講義として開催。)

《令和三年度後期「法華仏教講座」》

【第四回 西山茂先生】

令和四年(以下同)一月二十二日、西山茂先生(東洋大学名誉教授)のご講義「法華コモンズがめざすもの」がオンライン形式で開催された。今回は本学林理事長



西山 茂 先生

の西山先生自らが講師となり本学林の理念と目標を語ることです。スタッフはじめ多くの受講生が熱心に聴講した。講義は、(1)当学林の学是、(2)社会成仏の宗教、(3)コモンズやコモンとは何か? (4)法華コモンズがめざすものー「不軽精神」による仏国づくりー、の四項目にわたって細説して下さった。

(1)「日蓮仏教の再歴史化(現代的蘇生)」という実践的学びが当学林の学是であり、「立派な実践をする為には勉強を続ける以外に道はない」(行学二道)ということを確認した。(2)社会成仏の宗教では、日蓮仏教の実践は「社会成仏(立正による安国)」にあるとして、その立正安国の仏国とは、現代では「理想の共同体」と捉えるべきである、とご教示頂いた。

(3)そして、共有地を意味する Commons は近代資本主義成立の過程で否定されて、「共有から私有」になったが、晩期のマルクスは「自主的な共同性を重んじる共同体社会主義」を構想したことを挙げ、コモンズのめざす理想の共同体とはこうした「共同体社会主義」や「アソシエーション(相互扶助の協同組合)」また「脱成長のコミュニズム」ではないか、と例示された。

(4)については、日蓮仏教の基本精神を「不軽精神」として、長松日扇の教歌「義は強く言やはらかに身を下る これぞ不軽の折伏と知れ」を体現する丸腰非武装の「常不軽国家日本の建設(望月哲也氏の造語)」を提示された。そして、その具体案としての「四菩薩プロジェクト」の概要を示して、講義を終えられた。

なお、説明された西山先生の講義レジュメは現在、当学林ブログのメニューから拝読できるので、法華コ

モンズの理念と目標をあらためて知って頂く意味でも、皆様にご一読をお薦めしたい。(澁澤光紀 記)

【第五回 大竹晋先生】

四月二十三日、新宿・常円寺祖師堂三階において、仏典翻訳家として著名な大竹晋先生による「有と無と空と空性」とのご講義が執り行われた。

本講義は二月二十六日に開催を予定していたが、新型コロナウイルス・ウイルス感染症蔓延の状況に鑑みて延期され、四月の開催となった。

当日は、仏教の基礎の本格的な習得を目指す方から、仏教研究の専門家まで、幅広い層が会場にお越しください、斯界における大竹先生への注目の高さをあらためて認識した次第である。先生には、多くの御著書があり、今回は仏典翻訳家としての鋭い視点から、仏教における「存在」とは何かについて、「有」「無」「空」「空性」をキーに、「有」「無」と二諦・三諦の関係性、「空」「空性」と仏性・仏身・涅槃との関係性に注視され、インドの中観思想・唯識思想・如来蔵思想、中国の天台思想・「大乘起信論」・華嚴思想、日本の天台思想・密教思想の特徴を浮き彫りにしてくださった。

インドにおける諸法を有とみる立場、空/無とみる立場、また、「空性」をめぐる問題。中国における諸法を真如とみる汎真如論(『大乘起信論』、禪宗)、中道とみる汎中道論(天台顕教)。日本における汎真如論の系



大竹 晋 先生

統(空海・最澄・日蓮・道元)と汎仏論(天台密教)と大枠を示されながら講義を進められ、仏教の根本思想展開の特徴を見事に描いた画期的なご研究であった。

二時間のご講義は、大竹先生の穏やかにして真摯なお人柄による温かさと、翻訳を通して仏典に長年沈潜されてきた鋭い慧眼が光る、素晴らしい時間となった。また、質疑応答も大変掘り下げたレベルでやり取りされ、仏教研究が最先端で進展していく貴重な様子をの当たりにすることができ、関係者一同、大きな喜びを感じた次第である。

(布施義高 記)

【第六回 花野充道先生】

三月二十六日、花野充道先生（法華仏教研究会主宰・当学林教学委員）によるご講義「天台教学の四重興廃と日蓮教学の五重相對」が常円寺祖師堂において執り行われた。

中古天台の「四重興廃」と日蓮教学の「五重の相對」という日蓮滅後の教団分裂の原因となった「紛らわしい」ラビリンス（迷宮）に分け入って、はっきりと出口を指し示そうとする試みである。

今回、花野先生は、日蓮教学の根本問題を論ずるに当たり、その前提となった法華教学の源流と展開を微細に解析された。具には、天台智顗の『玄義』『文句』の説示を丹念に辿りながら、智顗教学の四重興廃について精確に論じられ、それらと対比しながら日本天台教学において四重興廃が独特に高調されていく様相を細説された。そして、天台智顗の「四種釈」や「四重の絶待妙釈」が原意となり、日本の院政期に至って、「四



花野充道 先生

重の浅深思想（四重の展転興廃思想）が成立したこと。「安然から皇寛（三十四箇事書）」に至る間に、『阿字秘釈』『阿若集』『顕密一如本仏義』

『本理大綱集』、さらに『三大部切合』『念仏宝号』『一実菩提偈』などの文献の成立を設定することによって、天台本覚思想の形成過程を合理的に説明することができると考えている」等と貴重な所見が提示された。

さらに、天台本覚思想には、天台教学系の本覚思想（『三十四箇事書』の本門の絶待妙、即ち地獄は地獄乍ら、仏界は仏界乍ら、法爾自体を実相なりと談ずる「本門思想」と如来藏思想系の『大乘起信論』の本覚思想があつて、「本門思想」の中では、必ずしも「本覚」の語が使われているわけではないと強調。中国天台から日本天台、そして日蓮教学へ展開していく様相を分かり易く解説して下さいました。

日蓮の教判論については次回、秋の講座で詳説される予定である。

いつもながらに、ポイントを絞りながらも広く深い知識を駆使され、学問研究の範を示される素晴らしいご講義であつた。

(波田地克利 記)

《令和四年度前期「法華仏教講座」》

【第二回 村上明也先生】

四月九日、令和四年度前期最初の法華仏教講座「天台と三論―久遠実成を考える―」が行われました。講師は村上明也先生（駒澤大学講師）。テーマは「天台と三論」ということで、主役は智顗と吉蔵。智顗は天台教学、吉蔵は三論教学、それぞれの大成者です。

はじめに、これまでの先行研究について概観し、智顗の著述と吉蔵の著述に依用関係があり、智顗の著述は智顗の講説を弟子の灌頂が編集していることから、天台と三論における教判論や經典観を探るポイントとして、年代的に吉蔵の著を参照し得る状況にあった灌頂に関する研究を挙げます。次に、天台と三論の教相判釈について解説し、『法華経』の「過去久成」、『涅槃



村上明也 先生

経の「未来常住」について、両者のロジックは類似しているが、教理史の視座から両者の共通点として、『法華経』より『涅槃経』が優れる、とする法雲の学

説に対する批判であることを指摘します。続けて灌頂『大般涅槃経疏』の記述から、灌頂が吉蔵の影響を受けながら、どのように天台独自の学説として発展的に継承させていったのかについて詳述されました。

村上先生は、豊富な資料をご用意され、全ての資料を「原文」「書下し文」「現代語訳」の三段階に分け、さらに重要な箇所には傍線を引いて説明してくださいました。また、時にホワイトボードに図を描きながら、受講者が理解しやすいように懇切丁寧にご説明くださいました。

(西山明仁 記)

【第二回 師茂樹先生】

五月七日、師茂樹先生（花園大学教授）による「最澄・徳一論争と、その後の展開」のご講義が、ズームを用いた実況配信型講義として執り行われた。

周知の通り、師先生は、昨年上半年に『最澄と徳一仏教史上最大の対決』（岩波新書）で、日本仏教史上における重要な一コマを極めて鮮明に描写され、仏教研究界の先導役として大変注目されている。当日は、ズーム開催であるにも関わらず、仏教研究の専門家を含む、多くの聴講者の参加が



師茂樹 先生

みられた。

先生の温厚誠実なお人柄や明快な語り口に誘われるかのごとく、質疑応答まで含めて頗る盛会となった。

師先生は、三一（二三）権実論争として有名な平安時代初期の最澄・徳一論争が、単純な二項対立の論争ではなく、その前提として、唐・新羅、あるいは日本内の当時の複雑な人間関係・師弟関係、多様な歴史的背景・ネットワークに注目する必要があること。それらを念頭に置き、先行する三論・法相の空有の論争から最澄・徳一の論争に収斂されていく様を解析してこそ正確に読み解ける論争であることを、分かり易く解き明かしてください。

また、その間、「唐決」の問題、延暦年間に何度も発された、三論・法相の争いを調停せんとする詔と最澄との関わり、最澄・徳一両者の「因明（宗・因・喻）」への視線、最澄の「共許」重視など、様々なキーが存することを明らかにされ、さらに、背景にある、諸宗併存体制のバックボーンの提示という最澄の視線など、最澄の著作に関心をもつ聴講者を大いに啓蒙してください。

さらに、講義では、当時の東国仏教における徳一の立ち位置にあためて注目されるなど、今後の日本仏教史研究の一側面の解明に繋がる貴重な所見を、惜しみなく披露してください。

今回の師先生のご講義は、日蓮聖人研究の面から今後の大きな前進に繋がる、極めて意義深いものであった。
(布施義高 記)

【第三回 芹澤寛隆先生】

六月二十五日、法華仏教講座「法華御籤の成立と展開」が行われました。講師は芹澤寛隆先生（法華宗〈本門流〉教学研究所研究員・当学林スタッフ）。日蓮教団に伝わる「御籤」（みくじ）＝いわゆる「おみくじ」に



先生 芹澤寛隆

ついで、その成立と展開の考察を通して、近世日蓮門下における布教の一端を明かされました。はじめに、おみくじとは何か、特に現代人々の日常に、おみくじがどのように関わっていたのかを中心に説明がありました。近世日蓮門下の多くの寺院で使用された「御籤」は、天台宗系の「元三大師御籤」をルーツとしており、文化年間に日蓮門下寺院で法華宗独自の「法華御籤」が刊行された。芹澤先生は、文化年間から近代にかけて刊行された諸本の写真図版、項目ごとにカラー分けされた表などの資料を紹介くださり、詳細にご説明くださいました。最後に中世から現代までの「元三大師御籤」と、日蓮門下における「法華御籤」諸本の連関を表にまとめ、「法華御籤」の歴史的展開について詳細にご説明くださいました。

芹澤先生は全二二頁に及ぶレジュメをご用意され、そこには先生が所蔵される「法華御籤」諸本の写真図版など貴重な情報が満載でした。加えて、なんと先生はレジュメに掲載されている資料の現物を会場にお持ちくださり、途中の休憩時間に聴講者にご披露くださいました。聴講者は貴重な資料を手に取り、食い入るように見入りながら、それぞれの感想を口にしていました。
(西山明仁 記)

講義報告

菊地大樹 先生

歴史から考える日本仏教⑨

法華持経者の思想的系譜

報告 谷口 智

連続講座シリーズ「歴史から考える日本仏教」は第九期目を迎え、今回は「法華持経者の思想的系譜」を講義いただきました。法華持経者とは『法華経』の中に説かれる理想的法華経修行者のことであり、大乘仏教に通底する經典信仰に基づくものであります。菊地先生には四回に渡り御講義をして頂きました。（第五講となる九月十七日に、間宮啓壬先生とテーマについて対談を予定）

第一講 山林修行と持経者（4/19）

「持経者」は、菊地先生ご自身の卒業論文以来のテーマであり、かつ川添昭二、高木豊といった先行研究者が存在していました。菊地先生は当初より山林修行者と持経者の深い関わりに関心があったとのこと。これについての思想的系譜は、家永三郎氏が着手しており上述の川添、高木両氏が続くのですが、歴史的側面といっても思想的側面を無視して進めることはできず、本講座第五回目にて間宮啓壬先生との対談を行い両者の統合化を図る予定となっております。本講では古代仏教まで遡り大陸仏教の系譜、經典暗誦の伝統、修行者と官僧との関わりなどを、『法華験記』等を読み解きながら解説頂きました。

第二講 持経者としての後白河院の宗教的世界（5/17）

本年NHK大河ドラマでは久々に西田敏行演じる後白河法皇が登場しましたが、その後白河院が持経者であったことは一般にあまり知られていないといっています。本講座では在家でありながら出家者として振舞い寺門派僧侶の自覚があったとされる院の宗教的世界を読み解きました。本講により平清盛は氣遣いの人、院は一身阿闍梨という寺院定数外の一世代限りの阿闍梨であったこと、東大寺復興勸進で有名な重源は

念仏聖のみならず持経者であり、かつ東大寺在籍の僧侶ではなくあくまで寺院外部の勧進僧であったこと等々が明らかとなり、大変意外性に富んだ講義となりました。

第三講 持経者から日蓮へ―密教をめぐる問題（6／21）

いよいよ日蓮の登場回となった第三講では密教の面から日蓮の思想性を探る旅となりました。日蓮教学上では密教（真言宗）の位置は肯定的ではありませんが、「法華」「密教」のように簡単に峻別は出来ないのではないかと、というのが菊地先生の所説でありました。

そこでまず『不動愛染感見記』ですが、先生のご意見としては「図像は日蓮独自のものではないのではないかと」との事。さらに「『感見記』の先にあるものは何であろうか」という新たな視点を提示されました。また日蓮出家・修学の地である清澄山は東密台密が緩やかに融合、その修したとされる虚空蔵菩薩求聞持法もシンブルなものではないかとの推論をたてられました。

第四講 南都堂衆の活動と持経者（7／19）

この第四講は、菊地先生単独の講義としては最終回となりました。「体制内」「体制外」という従来の日本仏教史の通説を解説、黒田俊雄氏の「学侶・堂衆・聖」という寺院内の位置付けから始まり、聖と持経者の



菊地大樹 先生

の範疇は必ずしも一致しないことを確認しました。次には俊乗防重源を取り上げ「持経者としての重源」について学習しました。重源が東大寺所属の僧侶ではなく勧進僧であった

ことは個人的に大変意外でした。また重源以降の東大寺について、活発な経済活動が行われたことは注目に値しました。最後に、日蓮は当初は平安以来の持経者として出発しながら、最終的にはそれとの決別により自己の信仰を確立していったとされました。以上雑駁ではありますが全四回の講義報告とさせて頂きます。

冒頭お知らせしました菊地大樹と間宮啓壬先生との対談は九月十七日開催の予定となっております。間宮先生は四回全ての講座を聴講され、質疑応答でも活発な意見交換をされました。第五講の対談におかれましてもさらに刺激的な内容となることが期待されます。

講義報告

菅野 博史 先生

『法華経』『法華文句』講義

菅野先生の『法華経』『法華文句』講義は、本年七月二十五日の講義で通算五〇回を数えました。

本講義は、『法華経』の経文とそれを解釈した『法華文句』の二つをテキストにして、「随文釈義」で経文を読解していきます。本年度前期の第一回は、経文では方便品の「増上慢の五千人起去」に続き、釈尊が自らの出世の本懐である「四仏知見の開示悟入」を述べるところから、『法華文句（Ⅱ）』では、四八四頁後ろから一行目「第四に正しく釈すとは、先に諸解を出す」と四仏知見についての全部で十三師におよぶ旧説を批判していくところからです。

その後の講義では、諸仏如来がただ一仏乗の仏知見をもって菩薩のみを教化することを明かす経文から、五濁悪世の衆生のために「方便力を以て、一仏乗に於いて分別して三と説く」と述べるところまで、『法華文句』の随文釈義を読み解いていきました。

菅野先生は、『法華経』が菩薩のみを教化対象にして



菅野 博史 先生

の中で、次のように考察されています。

「私は、『法華経』の最大の関心事は、法師品以降に見られる釈尊滅後の『法華経』信仰者の成仏の問題（これには布教の対象として、大勢の他者の成仏の問題も含む）であり、その観点から見ると、『法華経』前半の声聞授記は『法華経』の主張と相容れない部派教団との対立の乗り越えという課題から生まれた二次的な主張ではないかと考えた。もちろん、『法華経』の最大の主張は、一切衆生の平等な成仏であるから、それに声聞が含まれるのは当然であるが、『法華経』におけるあれほど多量の声聞授記の記述は、部派教団からの批判の乗り越えという問題意識を下敷きに見なければならぬと考え、あえて想像をたくましくして問題提起をした。」（『法華経入門』四八五頁）

八月二十九日（月）の講義は、テキストは五二四頁の一〇行目から方便品の偈文に入ります。対面と実況で開催します。ぜひ御受講ください。（担当スタッフ）

●『摩訶止観』講義の再開について

コロナ禍のために中断をしていた『摩訶止観』講義（福神研究所主催）が、同日の午後3時半から再開されます。オンラインでの実況受講も出来ますので、ご希望の方は、①氏名、②メールアドレス、③連絡先、を明記の上、次のファックス番号にお申込み下さい。

FAX: 〇四二六二七二七二七（福神事務所）

ぜひ、併せてご聴講の程お願い申し上げます

法華コモンズ仏教学林 後期講座一覧

2022(令和4)年度後期講座 開講:10月～2023年3月

《 対面講義が不可の場合は、開催日時でのオンライン講義、または講義動画配信にて開講します 》

- 一日集中講座「偽書が生み出した日本仏教」講義と対談によるシンポジウム 対面&実況
11月12日(土) 午後1時30分～6時30分 講師:佐藤弘夫先生×菊地大樹先生
講義Ⅰ「顕現する仏たち―「生身」と中世仏教」講師:佐藤先生
講義Ⅱ「偽書と伝授―語りえぬものを語ること―」講師:菊地先生 【受講料】1回分5,000円
- 連続講座「仏教哲学再考―『八宗綱要』を手掛かりに⑤」全4回 オンライン講座
開講時間 午後4時30分～6時30分 講師:末木 文美士
第1回 11月19日 / 第2回 12月17日 / 第3回 1月7日 / 第4回 2月11日
【受講料】1期4回分10,000円 / 【教材】鎌田茂雄全訳注『八宗綱要』(講談社学術文庫)
- シリーズ講座「法華仏教講座」全5回 開講時間 午後4時30分～6時30分 対面&実況
第1回 10月29日 「日蓮花押の母字について」 講師:西山 明仁
第2回 11月26日 「チベット仏教の他空説の源流について」 講師:望月 海慧
第3回 12月24日 「日蓮伝再考～日蓮神話を超えて」 講師:松尾 剛次
第4回 1月28日 「『観心本尊抄』から『曾谷入道殿許御書』へ」 講師:菅原 関道
第5回 3月25日 「『大乘起信論』の本覚思想について」 講師:花野 充道
【受講料】12,000円(全6回の講義分) ※当日1回の受講料は3,000円
- 連続講座「震災転移論――末法の世に菩薩が来りて衆生を救う?」全6回 対面&実況
開講時間 午後6時30分～8時30分 講師:磯前 順一
第1回 10月 3日 / 第2回 11月14日 / 第3回 12月12日 / 第4回 1月16日
第5回 2月20日 / 第6回 3月13日 【受講料】12,000円(全6回の講義分)
- 連続講座「史実・僧侶妻帯世襲――ブツダ時代から現代まで」全6回 対面&実況
開講時間 午後4時30分～6時30分 講師:大竹 晋
第1回 10月22日 / 第2回 11月 5日 / 第3回 12月 3日 / 第4回 1月14日
第5回 2月 4日 / 第6回 3月 4日 【受講料】12,000円(全6回の講義分)
- 連続講座「『法華経』『法華文句』講義」全6回 対面&実況
開講時間 午後6時30分～8時30分 講師:菅野 博史
第1回 10月24日 / 第2回 11月28日 / 第3回 12月19日 / 第4回 1月30日
第5回 2月27日 / 第6回 3月27日 【受講料】12,000円(全6回の講義分)

【会場】新宿常円寺 祖師堂地階ホール 新宿区西新宿7-12-5 電話03-3371-1797(寺務所)

【申込】受講講座名・氏名・住所・連絡先を明記して送付 ⇒ FAX:042-627-7227

mail:hokkecommons@gmail.com / ブログ:<https://hokke-commons.jp/>

192-0051 八王子市元本郷町1-1-9 善龍寺内 法華コモンズ仏教学林 事務局

賛助会員一覧(敬称略)

個人会員 ※1口 一万円

6口	小松 正学	2口	菅野 博史
6口	松原 勝英	2口	間宮 啓壬
6口	中野 顕昭	1口	長谷川正浩
3口	持田 貫信	1口	菊地 大樹
3口	西山 英仁	1口	澁澤 光紀
3口	鈴木 正厳	1口	鍋島 真永
3口	村上 東俊	1口	互井 観章
3口	竹内 敬雅	1口	匿名 希望

法人会員 ※1口 五万円

2口	東洋哲学研究所	2口	天龍寺
2口	持法寺	2口	立行寺
2口	本國寺	2口	本妙寺
2口	善龍寺	1口	摩耶寺
2口	大久寺	(以上)	

特別支援団体

本多日生記念財団 36万円

※本多日生記念財団様からは、本学林の前身となる本化ネットワーク研究会の時代から、毎年継続して多額のご支援を頂いております。

◎皆さまの「賛助」支援に篤く感謝申し上げます。

年間賛助会員加入のお願い

法華コモンズ仏教学林では、本学林の趣旨に賛同して運営の維持に協力して頂ける「年間会員」を新学期時に募集しています。下記の要領にて、受付けておりますのでぜひご協力のほどお願いいたします。

【年間賛助会員 加入申込み】

- 個人会員 年間1口(1万円)
- 法人・団体会員 年間1口(5万円)

《お申込み年度の特典》として

- 1、個人会員で6口以上の方には、会員のみ使える年間フリーパス受講証を差し上げます
- 2、法人・団体会員では2口で、誰でも使える年間フリーパス受講証を差し上げます

※「年間フリーパス受講証」は、開設の全ての講座を一年間にわたり受講することができます。

●お申込み頂ける方は、右の内容を書いて、表紙タートルまた7頁下にあるメールアドレス、ファックス、ブログからお申し込み下さい。

★ 個人か法人か、また何口かを明記する。

★ 名前、年齢、住所、電話、ファックスまたメールアドレスを明記する。

●直接にご加入・ご支援を頂ける方は、郵便振込用紙にて通信欄に口数をご明記の上、同封の振込用紙か、下記の口座にてお振込み下さい。

【口座名】 法華コモンズ仏教学林

【口座番号】 0015007634712

「講座映像版」販売のお知らせ

○菊地大樹先生「吾妻鏡」と鎌倉仏教」6回

○池上要靖先生「初期仏教研究」6回

○菊地大樹先生「歴史から考える日本仏教」

①鎌倉時代を射程にのべて ②《顕密問題》を考える

③日本宗教史の名著を読む ④鎌倉仏教史の名著を読む

※①～④まで各講座それぞれ6回の講義

◎ダウンロード版…価格一万二千元(消費税込)

全6回講義の動画ファイルとレジュームPDF

◎DVD版…価格一万二千五百円(消費税・送料込)

全6回講義のDVD6枚組とレジューム印刷物

◆詳細はブログ(<https://hoke-commons.jp>)参照。

■【本化ネットワーク叢書】頒価一冊二千元+送料

○叢書(2) 『「九識説」とは何か』

○叢書(3) 『本門戒壇論の展開』

法華コモンズ通信 第9号

○発行日 2022(令和4)年8月15日

○編集発行 法華コモンズ仏教学林

○発行所 法華コモンズ仏教学林 事務局

一九二〇五一 東京都八王子市元本郷町二・一九

【FAX】042(627)7227